

# 森林整備Ⅲ

里山保全活動  
里山の手入れ（実習）

日時：平成26年11月15日（土） 10:00～12:00

講師：戸丸 信弘（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

## 概況



森林整備Ⅲ 里山保全活動・里山の手入れ(実習)

講師 名古屋大学大学院生命農学研究課 戸丸 信弘 教授

### 第1限 座学

#### 1) 生物多様性とその危機

##### 生物多様性の定義

生物間のすべての変異性のこと。種・遺伝子・生態系の3つのレベルがある。

##### 生物多様性の危機

###### 第1の危機

人間活動や開発など、人が引き起こす負の要因による生物多様性への影響

(例) 開発事業、珍しい生物の乱獲や盗掘など

###### 第2の危機

自然に対する人間の働きかけが減ることによる影響

(例) 耕作放棄などの里山利用の減少など

###### 第3の危機

外来種や化学物質など人が持ち込むことによる生態系への攪乱

(例) 外来種による種間競争、近縁種との交雑による遺伝子汚染など

#### 2) 里山の生物多様性の減少

- ・開発による里山の消失(第1の危機)
  - ・里山の管理放棄(第2の危機)
- 結果、開発と管理放棄により生物多様性が喪失

### 3) 東海地方の里山保全のために注目するシデコブシ

シデコブシ(*Magnolia stellata*)について

- ・モクレン科の落葉低木
- ・東海地方の湿地にのみ生育する固有種。準絶滅危惧種
- ・花粉は虫媒
- ・種子は動物散布(重力散布、水散布)

東海地方の里山を保全するためにシデコブシに注目する

シデコブシは東海地方の里山保全の象徴種であり、希少種である。ある特定の種やその個体群に注目した保全活動は生物多様性の保全に繋がる。

### 4) シデコブシの生態的・遺伝的特徴

- ・陽樹であり、湿地に生育する
- ・萌芽や伏条によるクローン構造がある
- ・自家受粉だと果実の実りが悪い(近交弱勢)
- ・個体数の少ない集団や孤立している集団では、遺伝的多様性が低くなる傾向がある

### 5) シデコブシの保全による里山保全

シデコブシの保全

- ・生育地の森林で樹木を伐採し、林内を明るい状態に保つ
- ・500m以上分断をする自生地破壊は避ける
- ・地域間には遺伝的な違いがあるため、離れた集団からの移植は避ける保全活動を行う上で常に念頭におくべきこと

シデコブシの保全を通して里山全体の保全することが目的であるため、他の動植物にも気を配る。

## 第2限 実習

屋戸川沿いの保全活動地域において、除伐による保全活動実習を行った。

- ・3班に別れ作業を行った
- ・常緑樹と落葉樹(2、3本おきに1本)の除伐を行った